

北方領土返還運動のあゆみ

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事										
1945年	昭和20年	8月15日	1951年	昭和26年	10月31日	・日本ポツダム宣言受諾。	・北海道議会「千島列島の帰属に関し」決議。								
		8月18日				・占守島にソ連軍武力侵入。		・対日平和条約発効とともに根室近海のマッカーサーライン消滅、以後日本の危機推定線に変わるが、法的根拠なく、だ捕船が続出したため安全操業を望む声が出る。							
		8月23日				・日ソ両軍現地停戦協定締結。									
		9月2日				・日本、ミズーリ号上にて連合国への降伏文書に調印。									
	11月	11月1日				・連合軍司令部から、「千島列島の日本全守備軍はソ連極東軍最高司令官に降伏すべし」と命ぜられる。			1952年	27年	4月28日	・根室地方平和推進経済復興同盟根室市の有力者により結成、北方領土返還までの暫定的な措置として国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島の接岸操業を主張。			
		12月1日				・千島住居者漁船で根室へ脱出をはかる。			1953年	28年	8月	・復興同盟富樫会長ストックホルム平和集會に出席、歯舞群島への接岸操業をソ連側に提案。			
		1946年				21年			2月20日	1954年	29年	6月	・北海道附属島嶼復帰懇請委員会（仮称）結成の動きが根室町に起こる。	10月	・川端北海道水産会長の提案により大日本水産会内に北洋漁業対策委員会設置、安全操業問題につき具体案の検討に入る。
													・根室町長安藤石典、北方領土を米軍の保障占領下に置いてほしいと連合国軍師司令官マッカーサー元帥に陳情する。 (陳情第1号)		12月16日
		1947年				22年			1月15日	1955年	30年	1月25日	・ソ連（樺太南部、千島列島、国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島）をソ連邦憲法及びロシア共和国憲法通用地域とし土地、所在資源などを国有化、自国領に編入を宣言。	3月1日	・ドムニッキー在日元ソ連代表首席、鳩山首相に対し日ソ国交正常化に関する文書を手交。
													4月12日		・ソ連人民委員会、島民残留者に対し国後地方ウブラウレニヤ法令を布告、日本役場を解散させ行政をソ連法令によることとし、以後島民に対する警戒は厳重となり脱出も不可能となり、居住者はソ連人民となるものと心配した。
4月30日	・第二曉丸（渡辺雄吉所有、船長堀雄太郎、乗組員4人）多摩島沖合でソ連にだ捕される。（同年6月15日帰還）だ捕事件第1号以後日を追って多発。		9月11日	・千島歯舞群島居住者連盟発足。											
7月3日	・北海道附属島嶼復帰懇請委員会設立（会長安藤石典根室町長）		12月5日	・歯舞群島返還受入対策協議会開催。（根室町、歯舞村主催）											
8月6日	・懇請委、連合国総司令部マッカーサー元帥に対し北方領土の日本復帰とソ連軍によるだ捕事件の不当占領解除等につき陳情。		1956年	31年	2月21日		・歯舞群島の復帰を計る目的で旧歯舞村に歯舞群島対策委員会を結成。								
8月12日	・北方領土復帰懇請のため地元代表5名が上京、外務省、終戦連絡中央事務局、連合国軍総司令部などを訪問陳情。						2月28日	・北海道行政機構内に領土復帰北方漁業対策本部設置。							
1949年	24年		11月17日	1957年	32年		6月3日	・懇請委再びマッカーサー元帥に対し、「国後地方ウブラウレニヤ法令」布告の新実態とソ連軍によるだ捕事件の不当及びソ連軍の占領解除を行いアメリカ軍の占領下に保護を受けたいと陳情。					8月16日		・松本全権、領土問題を含む平和条約締結交渉を外交関係再開後も継続するとの公文をグルムイコソ連外務次官との間に交換。
								7月22日							・北海道議会「歯舞群島、色丹島及び択捉島並びに国後島の日本領土返還に関する請願」を決議、マッカーサー元帥に懇請。
		8月10日				・北海道附属島嶼復帰懇請根室国民大会開催、決議文をマッカーサー元帥に送付。（会場、本町桜橋広場）		1958年	33年	3月12日	・地域住民の期待を裏切りソ連側のだ捕攻撃ますますはげしく日本政府駐ソ門脇大使を通じグルムイコソ連外相に安全操業の申し入れ。				
		・ソ連軍の命により島民残留者本土に引揚開始。（一時樺太に連行され樺太から函館に上陸）				8月16日					・ソ連政府、安全操業問題で日本と交渉の用意ありと回答。				
1950年	25年	1月20日	1959年	34年	3月27日	・「根室千島国民大会」を北海道附属島嶼復帰懇請委員会の主催により開催。	9月28日	・根室市議会「安全操業実現」を決議。							
						12月10日		・懇請委根室地方住民及び中央関係機関に文章で千島、歯舞群島復帰懇請運動の経過報告。	7月23日	・根室市議会「北方領土返還及び安全操業実現」を決議。					
						3月13日		・北海道附属島嶼復帰懇請委員会、「北海道附属島嶼である南千島及び歯舞群島の返還懇請趣意書」「千島列島概況」を発刊、世論喚起に努める。	12月10日	・千島歯舞群島居住者連盟内閣総理大臣認可の社団法人となる。					
1951年	26年	3月5日	1960年	35年	1月27日	・北海道議会、北方領土返還懇請について政府及び全国知事に訴える。	2月5日	・駐ソ門脇大使、ソ連外務省にソ連のわが国漁船だ捕措置は不法と通告。							
						11月7日		・千島及び歯舞群島復帰懇請同盟結成（事務局札幌市）以後北方領土返還運動の中心団体となり機会のあるごとに中央関係機関に対し懇請。	1961年	36年	8月14日	・グルムイコソ連外相日米新安条約を非難、在日外国軍隊が撤退せぬ限り歯舞色丹島を引渡さぬと通告。			
						12月22日		・千島及び歯舞群島返還復帰道民大会、札幌市で開催。（千島及び歯舞群島復帰懇請同盟主催）				8月16日	・山田外務次官、駐日ソ連大使に対し、1月27日の通告は領土問題につき共同宣言に新しい条件を付し、宣言内容を変更せんとすることは承認できない旨の覚書を手交する。		
						7月23～28日		・懇請同盟陳情団を編成北方領土復帰につき中央陳情懇請。	10月1日	・昭和33年7月1日設立の「日ソ平和条約締結根室地方近海漁業協定締結促進期成会」を「北方領土対策協議会」に改組。					
						8月25日		・全国知事会で「北方領土及び南領土の領土権確保」を決議。	8月23日	・ミコヤンソ連第一副首相来日。					
9月8日	・サンフランシスコ平和条約を調印、ソ連調印せず、日本、千島列島の権利、権原請求権を放棄。	8月16日	・池田首相にフルシチョフソ連首相の親書を手交、この中で日米安保体制を非難。												
						8月23日	・貝殻島沖合で大量だ捕事件起きる。（こんぶ船11隻、カニ船2隻計13隻、乗組員32人、内高校生2人が含まれていた。）								
						8月26日	・池田首相、フルシチョフ親書に返書、北方領土返還が日ソ平和条約への道であると主張。								
						9月1日	・大量だ捕緊急対策陳情団を編成、少年を含むだ捕船員の「即時釈放」「貝殻島周辺での安全操業実現」など6項目を政府関係機関に陳情。								

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事	
1961年	昭和36年9月29日	・フルシチョフソ連首相、池田首相に返書、この中で北方領土はすでに解決済であると宣明。(9月25日付)	1969年	昭和44年8月5日	・北方領土復帰期成同盟など全国の協力団体とともに北方領土視察及びキャラバン実施。	
	10月30日	・北方地域旧漁業権者等に対する特別措置に関する法律成立。政府、北方地域元居住者等の援護措置として国債10億円を北方協会に公布。		8月23日	・北方領土返還署名百万人突破全国大会札幌市において開催。	
	11月15日	・池田首相、フルシチョフソ連首相に返書、日ソ間の領土問題は未解決である、日本はヤルタ協定に拘束されぬ、国後、択捉両島については日本はなんらの権利をも放棄しないと反論。		8月27~28日	・第5回北方領土基参実施される。	
	12月15日	・元島民の生活安定をはかる目的で北方協会設立、政府から10億円の融資。		9月1日	・根室市北方領土返還PR映画作成、全道各映画館で上映する。	
1963年	38年1月14日	・日ソ協会根室支部「北方基参実現署名運動」始める。	1970年	45年2月13日	・北方領土問題をテーマに「道東六市長提携会議」開催、政府に陳情。	
	3月28日	・千島及び歯舞群島返還懇請同盟、北方領土復帰期成同盟と改称(昭和40年4月28日外務大臣認可の社団法人となる。)		4月10日	・北方領土返還を米国務省、国連等に訴えるため、北方領土返還期成同盟会長松本俊一氏、道領対本部長松崎了介氏ら民間使節団一行4名渡米。	
	6月10日	・モスクワで待望の貝殻島周辺昆布漁の民間協定締結。		8月14日	・根室市、北方領土返還運動推進の一環としてPR冊子「日本の領土、北方領土」旧島民の体験を収録した北方領土終戦前後の記録を発刊。	
	6月19日	・昆布船18年ぶりで貝殻島周辺安全操業水域へ出漁。(9月30日まで300隻出漁)		9月23日~25日	・第6回北方地域基参実施。(勇留島、多楽島、国後島を基参)	
1964年	39年5月13日	・北方基参実現署名終了、竹村日ソ協会根室支部長上京してソ連大使館、厚生省、日ソ協会本部へ陳情。	1971年	46年3月20日	・北方領土居住者若青年連合会設立(構成員は全員引揚者)	
	5月17日	・ソ連政府、歯舞群島及び色丹島所在の日本人墓地への基参につき応ずる用意があると通告。		9月25日	・「北方領土返還運動根室地域推進委員会」を解散、新たに「北方領土復帰期成同盟根室地方支部」を設置する。支部長に横田根室市長。	
	9月8日	・北方領土関係団体、来道のソ連最高会議議員団セルジューク代表らに北方領土返還安全操業の確立を要望。		1972年	47年2月1日	・根室市長、根室市議会議長の連名にて、全国2,680議会(都道府県、市区町村)に対し、北方領土の早期日本返還実現についての決議方を要請。
	9月21日	・第1回目の北方基参実現。(9月11日までの4日間、水島島と色丹島の4墓地)			4月16日	・「望郷の家」開館。(納沙布岬)
4月1日	・佐藤首相、コスイギンソ連首相に対し北方領土問題の解決、国後、択捉両島への基参実現など要請した返書を送る。	48年9月20日	・衆議院で「北方領土返還に関する決議案」を各党全会一致で可決採決した。			
4月28日	・横田根室市長、北方領土問題、安全操業の解決を市政の最重要事項として市の機構を改革、企画課内に領土対策係を新設。	9月21日	・参議院で「北方領土返還に関する決議案」を各党全会一致で可決採決した。			
1965年	40年2月1日	・北方領土復帰期成同盟、外務大臣認可の社団法人となる。	1973年	10月7~10日	・田中首相訪ソ、3日間にわたる日ソ首脳会談終え10日夜日ソ共同声明発表された。	
	8月1日	・ソ連政府、歯舞、色丹への基参を認めると回答。		1974年	49年8月12~17日	・北対協主催の北方少年交流会が東京で開催され根室管内の少年8名が総理大臣、総理府総務長官、外務大臣、文部大臣に北方領土の現況を訴える。
	8月16~19日	・北方領土返還運動月間実施(8月中)以降毎年8月実施。			8月21~23日	・第7回北方領土基参実施。(多楽島、色丹島、志発島を基参)
	9月9日	・第2回北方領土基参実施基参箇所昨年と同じ。			1976年	51年1月7日
12月10日	・中川駐ソ大使、赴任にさきがけ、北方領土の現状視察のため来根。	5月6日	・北方基参中止。(ソ連側はパスポート、ビザの携行を要求)			
2月22日	・北方資料館落成。	7月8日	・根室市北方領土返還要求推進協議会設立総会。			
6月14日	・北海道各地で北方領土返還百万人署名運動はじまる。(千島連盟主体)	9月11日	・宮沢外相現地視察のため来根。			
1966年	41年2月3日	・初の北方領土資料展札幌市で開く。	1977年	52年4月15日	・ソ連邦沿岸200カイリ漁業専管水域実施を宣言。	
	8月23~24日	・北方地域基参箇所新たに国後島も認めるとソ連回答。		54年2月13日	・日ソ漁業交渉に伴う中央陳情団上京。漁業権益の絶対確保及び200カイリ水域問題と領土問題との関連を要望。	
	8月25日	・第3回北方領土基参実施(基参箇所として昨年の外に、国後島、古釜布が認められる。)		1979年	55年8月1日	・日ソ平和条約締結促進、北方領土復帰実現に関する中央要請。
	11月30日	・北方領土日本返還促進決議を全国の都道府県、市町村議会議長に呼びかける。(根室市)			56年1月6日	・北方領土オープン。
12月24日	・サハリ州ネベリスク市(旧樺太本斗)執行委員会議長から根室市と友好親善を結びたいむねの要請文、根室市長宛に届く。	2月7日	・「北方領土の日」の設定について閣議了解。			
8月25日	・根室市長、ネベリスク市議長に友好親善を結ぶむねの返書。	9月10日	・初の「北方領土の日」記念住民大会開催。			
1967年	42年9月4~8日	・第4回北方領土基参実施、基参箇所昨年同様。	1981年	57年8月20日	・鈴木首相、現職首相として初めて北方領土を空陸から視察。(中山総務長官、原北海道開発庁長官、中川科学技術庁長官同行)	
	9月29日	・根室市議会内に「北方領土対策特別委員会」設置。		9月27日	・北方領土返還祈念シンボル像「四島のかげ橋」が納沙布岬に完成。	
1968年	43年5月27日	・初の北方領土早期返還促進キャラバン隊、道内47市町村に派遣。(以降毎年実施)	1982年	10月4日	・寺嶋根室市長を団長とする北海道使節団が国連で国際世論喚起のため、渡米。	
	10月31日	・ノサップ岬に北方領土返還PRガイドを置く。		8月22日	・北方領土問題等の解決の促進のための特別措置に関する法律成立。	
1969年	44年3月5日	・総理府田中総務長官北方領土現地視察のため来根する。(総務長官として初めて)	1985年	58年2月7日	・国際親善ノサップ岬健康マラソン大会開催。(北方同盟、北海道、根室市ほか主催)	
	3月14日	・色丹島、国後島の転籍届けを元島民が根室市役所に願い出た。		60年7月27~28日	・「北方領土の日」根室管内少年弁論大会開催。(以降毎年根室市で開催)	
	3月18日	・北方領土問題各省連絡会議で国土地理院の地図に択捉島以南を入れる方針決定。		8月25日	・北方領土返還祈願望郷ラインサイクリング実施。(羅臼~納沙布岬)	
	5月22日	・特殊法人「北方領土問題対策協会」設置法案を閣議決定。		61年8月21~24日	・北方領土返還要求根室管内住民大会開催(望郷の岬公園) 三千人集会。	
		・「北方領土問題対策協会法」公布。(法律第34号)	1986年		・第9回北方領土基参実施、11年ぶり再開。(色丹島、水島島を基参)	

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
1987年	昭和62年8月25日～28日	・第10回北方領土基参実施。(色丹島、水島島を基参)	1994年	平成6年4月5日	・ポキーン南クリール地区長が根室市に対し北方領土水域での民間協定による漁業協力を提案。
	11月21日	・貝殻島周辺ウニ漁の日のソの民間協定交渉妥結。		4月18日	・ビザなし渡航の特別措置として、銃撃を受けだ捕された第68由貴丸、能登敬一船長への面会のため親族3名、外務省職員、医師が色丹島アナマに向けて出発。
1988年	63年8月23～26日	・第11回北方領土基参実施。(色丹島、多楽島14年ぶり、志発島13年ぶり基参)	4月22～27日	・北方四島からビザなし交流団第1陣70人が来道。(今年度全6陣で342人来道)	
1989年	平成元年8月22～27日	・第12回北方領土基参実施。(第1班、国後島、古釜島19年ぶり、第2班、色丹島、多楽島、志発島を基参)	5月11～13日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣48人が訪問。今年度、全7陣で324人渡航)	
	10月26日	・「第1回北方領土フォーラム」開催。(以降毎年開催)	7月4～8日	・初の北隣協主催による、日本側ビザなし訪問実施。(団長大矢根室市長、計45名)	
1990年	2年3月27日	・北方領土「四島の開発プラン」表彰式。	8月15日	・カニかご漁船第38 貴栄丸の名越憲和甲板員が秋勇留島沖で国境警備隊による銃撃を受け負傷だ捕される。	
	6月14日	・大矢市長、「ロシア連邦共和国訪問北海道代表团」の一員として訪ソ。	8月22～24日	・第17回北方領土基参実施。(第1班、多楽島フルベツを基参)	
1991年	8月24日～9月2日	・第13回北方領土基参実施。(第1班、国後島乳呑路、泊、志発島を基参)	8月23～25日	・(第2班、国後島泊、ブニを基参)	
	3年4月16～19日	・ゴルパチョフ大統領、ソ連最高首脳として、史上初めて来日。	8月31～9月2日	・(第3班、国後島ラシコマンベツを基参)	
1991年	8月17日	・サハリン州の小中学生及び引率者(計67人)花咲港に入港(四島在住者含む)	10月4日	・(第4班、色丹島テボイ、択捉島年萌、紗那を基参)	
	8月22～27日	・第14回北方領土基参実施。(第1班、色丹島ノトロ、択捉島薬取、別飛、内保を基参)	10月6日	・根室東方沖でマグニチュード7.8の地震が発生。釧路、根室地方はもとより北方四島も甚大なる被害を受ける。(北海道東方沖地震)	
1991年	3年8月26日	・(第2班、国後島植内、歯舞群島勇留島トコマを基参)	10月15～17日	・カレイ刺し網漁船第68 宝来丸が秋勇留島沖で国境警備隊による銃撃を受け沈没。浅井雄一船長他2名がだ捕される。	
	10月14日	・(第3班、国後島佛沸を基参)	7年1月23日	・北方領土返還要求運動連絡協議会(北連協)が北海道東方沖地震で被災した北方四島在住ロシア人を救済するため「北方領土島民救済委員会」を設置。	
1992年	11月17～23日	・外務省ソ連課長による日ソ交渉経過説明会。	4月23～28日	・政府、北海道、民間団体による北方領土への人道支援訪問団が根室港を出港(国後島、色丹島、択捉島を支援)	
	12月3～5日	・モスクワでの中山、パンキン外相会談でビザなし渡航合意。	5月6日	・ロシア北方四島行政関係者6人がビザなし訪問。(花咲港に入港)	
1992年	4年4月1日	・大矢市長、「北方領土総合理解促進対話、交流使節団」副団長として訪ソ。	5月19～23日	・北方四島からビザなし交流団第1陣73人が来道。(今年度全7陣で426人が来道)	
	4月22日～27日	・ロシア、ソビエト連邦社会主義共和国ロシアテレビ公社が北方領土問題取材のため来根。	6月7日	・ロシア国境警備隊にだ捕、抑留されていた第58 海栄丸の久保田金蔵船長と第83 金徳丸の寺沢則昭漁労長が釈放。これにより、ロシアに抑留されている日本人は約2年ぶりにゼロとなる。	
1993年	5月11～17日	・根室市役所に国際交流課新設。	7月5～7日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣46人が訪問。今年度全8陣で371人渡航)【平成7年度より国会議員が訪問団顧問として参加、第1陣に鈴木宗男衆院議員、坪井一宇参院議員が参加した】	
	5月30日	・北方四島在住島民、ロシア側ビザなし交流団花咲港に歴史的な第1歩。(第1陣19人が来道今年度、全6陣で268人が来道)	7月15～16日	・衆参両院の沖縄及び北方問題に関する特別委員会が北方領土問題の解決促進に関する決議を採決。	
1993年	8月19日	・北方四島への日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣45人が国後島、色丹島、択捉島を訪問。今年度、全6陣で268人渡航)	8月6日	・平成7年度第1回の政府人道支援物資が出港。(国後島、色丹島を支援)	
	8月22～26日	・根室市北方領土返還要求推進協議会会長に河原勝治氏選出。	8月13～18日	・ロシア、イブズベスチヤ紙のオットーラツィス論説委員が北方領土問題取材のため来根。	
1993年	9月9～16日	・第1回北方領土問題教育指導者研修会開催。(以降毎年開催)	8月22～25日	・北方領土返還要求現地根室大会並びに根室市民のつどい開催。(50年大会・市中パレード実施)	
	9月12～14日	・第15回北方領土基参実施。(第1班、択捉島年萌、紗那を基参)	8月26～29日	・第18回北方領土基参実施。(第1班、択捉島別飛、留別、国後島近布内、植沖を基参)	
1993年	5年2月7日	・(第2班、色丹島斜古丹、多楽島フルベツを基参)	9月8日	・(第2班、国後島東沸、乳呑路を基参)	
	4月22～26日	・(第3班、国後島乳呑路を基参)	9月10日	・(第3班、多楽島フルベツ、色丹島相見岬を基参)	
1993年	5月14～16日	・(第4班、国後島カマツカリ、中の古丹を基参)	10月5日	・ロシア連邦院国際問題委員会一行(7名)が来根、北方領土を視察。	
	8月22～25日	・北方領土の日啓発無線交信事業開催。	8年1月22日	・北方四島物故者記追悼50周年祭開催。	
1993年	9月3～7日	・北方四島からビザなし交流団第1陣46人が来道。(今年度、全8陣で406人が来道)	3月25日	・平成6年10月の北海道東方沖地震による人道支援の一環として色丹島に建設中の仮設診療所が完成。	
	9月8～9日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣47人が国後島、色丹島、択捉島を訪問。今年度、全9陣で418人渡航)	4月3日	・ロシア北方四島行政関係者6人がビザなし訪問。(花咲港に入港)	
1993年	10月8日	・第16回北方領土基参実施。(第1班、志発島西浦泊を基参)	10月5日	・根室市が元島民の手記による北方領土50年史を発刊。	
	10月11日	・(第2班、国後島泊を基参)		・北方水域操業自衛ラインが1977(昭和52年)の2百カイリ暫定措置法の施行に伴う旧ラインの設定以来19年ぶりに改定される。	
1993年	10月12日	・(第3班、択捉島留別、別飛、色丹島アナマを基参)			
	11月26日	・(第4班、国後島植内、ニキシロを基参)			
1994年	6年1月9日	・(第5班、水島島秋味場を基参)			
	1月26～27日	・北方領土返還要求署名運動6千万人達成。 ・エリツィン大統領来日。 ・「東京宣言」「経済宣言」に日ロ首脳が調印、北方領土問題については交渉対象として四島の名前が明記された。			
1994年		・カレイ刺し網漁船第68 由貴丸の能登敬一船長が、納沙布岬で国境警備隊による銃撃を受け左足を負傷、だ捕される。			
		・ロシア北方四島行政関係者7人がビザなし訪問。(花咲港に入港)			
1994年		・北千島、セベロクリーリスク市の代表团来根、根室市との姉妹都市提携に調印。			

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事	
1996 年	平成 8 年 4 月 18 日 ～23 日 5 月 25～27 日	・北方四島からビザなし交流団第 1 陣 69 人が来道。(今年度、全 6 陣で 413 人が来道) ・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣 48 人が訪問。今年度、全 9 陣で 422 人渡航)	1997 年	平成 9 年 12 月 15 日	・北方四島人道支援の一環として建造中の自航式はしけ「希望丸」(80ト)が完成。(引渡式は 2 月 2 日)	
	6 月 21 日	・「北方地域旧漁業者等に対する特別措置に関する法律の一部を改定する法律案」が通常国会で可決され、これにより元島民と旧漁業者者に限られていた北対協資金の融資資格が、一定の要件を満たして生前継承の手続きをとることによって、子供や孫にも適用されるようになる。(10 月 1 日施行)		12 月 30 日	・北方四島周辺海域での日本漁船操業枠組み交渉第 13 回協議が妥結し、協定文書の合意内容を確認する覚書に日ロ両国代表が調印。	
	7 月 23 日	・チジョフ駐日ロシア大使が来根、北方領土を視察(駐日大使の来根は 33 年ぶり)		1998 年	10 年 1 月 22 日	・平成 9 年 11 月のクラスノヤルスク合意を受けた初の日ロ外務次官級協議がモスクワで開催、両国外相を委員長とする「平和条約締結問題日ロ合同委員会」を設置することで合意、また、ロシア側は北方四島の共同経済活動を提案。
	8 月 20 日	・日本の人道支援の一環として色丹島アナマに建設中の小学校が完成。		2 月 7 日	・北対協及び根室市、北方領土啓発ホームページを開設。 (http://www.hoppou.go.jp)	
	8 月 25 日～ 9 月 1 日	・第 18 回北方領土墓参実施。 (第 1 班、国後島古釜布植留内を墓参) (第 2 班、択捉島内保、紗那を墓参) (第 3 班、志免島カフェノツ、色丹島稲茂尻を墓参) (第 4 班、国後島古丹消、勇留島トコマを墓参)		2 月 21 日	・小淵外相訪ロ、モスクワで北方領土周辺水域における日本漁船の安全操業協定に調印。	
	8 月 28 日	・根室市内の漁船(第 52 多喜丸、第 28 昭久丸)が操業中に銃撃を受け、船長が負傷する。		4 月 1 日	・根室市、構造改革で北方領土対策室を新設。	
	10 月 1 日	・「北方地域旧漁業者等に対する特別措置に関する法律の一部を改正する法律」施行。		4 月 17 日	・政府、北方領土へのビザなし渡航者を制限していた 1991 年 10 月の閣議了解を変更し、従来の渡航対象者に加え「学術・文化・社会等の各分野の専門家」も対象とする事を決定。	
	10 月 12 日	・根室市内のサンマ漁船がロシア国境警備隊の臨検を受け、乗組員 5 名がだ捕される。根室海峡における日本漁船のだ捕は 1994 年 10 月 4 日以来。(平成 6 年)		4 月 18～19 日	・静岡県・川奈で日ロ非公式首脳会談開催。日ロ平和条約について「東京宣言に基づき、北方四島の帰属問題の解消を内容とし、21 世紀に向けての日ロ友好協力の原則を盛り込んだものとなるべき」との考えで一致。	
	9 年 3 月 6 日	・エリツィン・ロシア大統領が年次教書を発表し、北方領土の日ロ共同開発を含むあらゆる面で日本との協力を進める用意があることを表明。		4 月 24 日	・「北方領土登記訴訟」の原告で元島民(水島島出身)、舩潟喜一郎氏が死去、94 歳。	
	3 月 25 日	・歯舞群島・水島島にある所有地の登記内容変更を法務局に却下された根室市の元島民舩潟喜一郎氏が却下取消を求めた「北方領土登記変更訴訟(舩潟訴訟)」の判決で、釧路地裁は「北方領土内の土地は登記の対象であり、登記官が現地調査できなくても権利変動の登記を受け付けることができる」として、法務局側に却下取消を命じる(法務局側はこの判決を不服として 4 月 7 日に札幌高裁に控訴、現在も係争中)		5 月 15～20 日	・北方四島からビザなし交流団第 1 陣が来日。(今年度、全 9 陣、内道内 6 陣)	
	4 月 24 日	・ブルブリス・ロシア国会議員が来根、北方領土を視察。		5 月 17～20 日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣が訪問。今年度、全 12 陣)	
	4 月 23～28 日	・北方四島からビザなし交流団第 1 陣が来道。(今年度全 8 陣)		6 月 4～8 日	・第一回北方四島基地現地調査(国後島)	
	5 月 19～23 日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣が訪問。今年度、全 11 陣)		6 月 18～22 日	・第二回北方四島基地現地調査(色丹、多楽、秋留島)	
	5 月 19～23 日	・堀達也北海道知事が北方領土を訪問。		6 月 23 日	・政府人道支援による国後島・古釜布棧橋改修の目録贈呈として初めて国後・択捉島を訪問。	
	6 月 6～7 日	・「日ロ友好と北方領土」討論会出席のため、アレクサンドル・パノフ駐日ロシア大使と孫崎享北海道担当特命全權大使が来根。		6 月 26 日	・歯舞群島・水島島沖で歯舞漁業所所属のサケ・マス流し網漁船(乗組員八名)がロシア国境警備隊にだ捕される(7 月 1 日釈放され、帰港)	
	6 月 25 日	・納沙布岬沖合の日ロ中間ライン付近で操業中のカレイ刺し網漁船・第 63 栄幸丸がロシア国境警備隊の銃撃を受け、乗組員 2 名が負傷。		6 月 29 日	・東郷和彦外務省総括審議官が来根。	
8 月 25～28 日	・第 19 回北方領土墓参実施。 (第 1 班、択捉島年萌・別飛) (第 2 班、色丹島ノトロ、志免島西浦泊)	7 月 10 日	・歯舞群島・水島島沖のロシア主張領海内で根室のサンマ棒受け漁船(乗組員一名)がロシア国境警備隊にだ捕される(7 月 13 日釈放)			
8 月 27 日	・日本側ビザなし訪問団が根室港を出港、今後は日本側訪問団に限り根室港からの出入港が認められる。	7 月 21 日	・北海道に事業、北方四島交流施設が市内種香で着工される。			
8 月 30 日～9 月 1 日	・第 19 回北方領土墓参実施。 (第 3 班、国後島泊) (第 4 班、国後島東沸、水島島茂尻消・秋味場)	7 月 27 日	・「北方領土登記訴訟」の原告の舩潟喜一郎氏が 4 月に死去したことに伴い、原告弁護団が長男の訴訟継続を札幌高裁に申し立てる。			
9 月 30 日	・丹波実外務省審議官が第 6 回ビザなし訪問団に同行、外務省高官の北方領土訪問は初めて。	10 年 8 月 4 日	・ビザなし渡航による日ロ双方の訪問者数が、平成 4 年 4 月の実施以来 5 千人を突破する。			
11 月 1～2 日	・ロシアのクラスノヤルスクで日ロ非公式首脳会談が行われ、「1993 年の東京宣言に基づき 2000 年までに平和条約を締結するよう全力を尽くす」ことで合意。	8 月 17～31 日	・第 21 回北方領土墓参実施。 (第 1 班、択捉島留別・薬取) (第 2 班、色丹島アナマ、志免島カフェノツ、多楽島フルベツ) (第 3 班、国後島礼文礁、白糠泊)			
11 月 13 日	・日ロ定期外相会談で、小淵・プリマコフ両外相が日ロ平和条約締結に向け両外相を加えた交渉グループを新たに設置することで合意。	8 月 17～20 日	・政府、ビザなし交流で 99 年度から教員、地質学者を派遣し、専門家交流を大幅に拡大する方針を決定。			
			8 月 27～31 日	・小淵首相ロシアを公式訪問、エリツィン大統領と会談し、国境確定委員会及び共同経済活動委員会の設置、元島民の北方四島への自由往来などで合意。また、両首脳は「モスクワ宣言」に署名し、クラスノヤルスク及び川奈合意に基づき「2000 年までの日ロ平和条約締結に全力を尽くすとの決意」が日ロ間の公式文書で初めて確認される。		
			10 月 3 日	・根室と国後島間に設定されていた通信用「改定ケーブル」の一部引き揚げられた。		
			11 月 11～13 日	・太田誠一総務長官は北方領土視察。		
			1999 年	11 年 1 月 18 日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣が訪問。今年度、全 16 陣)	
				5 月 4 日		
				5 月 21～24 日		

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事		
1999年	平成 11年 5月 26日	・藤原市長「ビザなし交流訪問団团长」としてビザなし交流に初参加。	2001年	平成 13年 7月 1日	・北方領土啓発施設「北方館」の入館者が1千万人を達成。		
	6月 3～8日	・北方四島からビザなし交流団第1陣が来日。(今年度全8陣、うち来道5陣)		8月 1日	・尾身沖縄・北方対策担当大臣が北方領土を視察する。		
	6月 9～15日	・第1班北方四島基地現地調査(国後島、色丹島)		8月 21～22日	・第24回北方領土基参実施。 (第1班 色丹島年萌、トマカウス、ウナヘツ)		
	6月 30日～7月 7日	・第2班北方四島基地現地調査(択捉島)		8月 27～30日	(第2班 色丹島相見崎、志免島カヅノ)		
	7月 29日	・「北方領土・国後島『爺爺岳』専門家交流訪問団」出港。		9月 1～3日	(第3班 国後島植内)		
	8月 6日	・「択捉島ラッコ専門家交流訪問団」出港。		9月 5～7日	(第4班 国後島フニ、オホ)		
	8月 25～28日	・第22回北方領土基参実施。 (第1班 択捉島紗那、フレシコタン) (第2班 色丹島キリトウシ、国後島父吾路)		8月 26日	・北方領土返還促進根室市民会議の設立総会が開かれる。		
	8月 30日～9月 1日	(第3班 国後ニキシロ、近布内)		9月 10日	・仲村内閣府副大臣が北方領土を視察する。		
	8月 30日～9月 2日	(第4班 多楽島ヒラリス、水島島秋味場)		9月 27日	・北方領土返還要求運動に尽力した「末次一郎氏を偲ぶ会」が納沙布岬の四島のかげ橋で行われる。		
	9月 11～12日	・98年の日ロ首脳会談で合意された、北方四島への元島民、家族による初の「北方領土自由訪問」第1陣が志免島へ出発。		10月 21日	・上海APEC首脳会談に際し、日ロ首脳会談が行われ、「双方が前提条件を付けずに歯舞・色丹の議論と国後・択捉の議論を同時かつ並行的に進めていく」との分離・並行協議で基本合意する。		
	10月 20日	・北方領土返還要求全国キャラバンの東日本コースが根室役所前から出発する。		11月 27日	・「参議院沖縄及び北方領土問題に関する特別委員会」に藤原市長、嶋津議長、波多議員が出席し、北方領土未解決が及ぼす地域振興の阻害を訴え、特別交付税の省令改正など財政支援を要請する。		
	10月 24日	・国後島古釜布に緊急避難所兼宿泊施設「日本人とロシア人の友好の家」000が完成。現地で行われる。		2002年	14年 1月 16日	・能代内閣府副大臣が北方領土を視察する。	
	11月 1日	・道立北方四島交流センターの愛称が「ニ・ホ・ロ」に決定する。			5月 25日	・尾身沖縄・北方対策担当大臣が北方領土を視察する。	
	2000年	12年 2月 7日			・道立北方四島交流センターがオープンする。	8月 23日	・外務大臣としては14年ぶりに川口外務大臣が北方領土を視察する。
		2月 20日			・北方領土フォーラム「新世紀を超える北方四島の将来」が北方四島交流センターで開催。	8月 27～30日	・第25回北方領土基参実施。 (第1班 台風のため中止)
		4月 21日			・根室市南沖の日本 200 海里内で宮城県産の漁船がロシア警備隊に銃撃され、だ補される。	9月 1～3日	(第2班 色丹島ノトロ、勇留島トコマ)
		5月 12日			・統訓弘総務庁長官が北方領土を視察。	9月 5～7日	(第3班 国後島泊)
5月 24日		・「国後シマフクロウ専門家交流訪問団」(日本側)が国後島でシマフクロウの生態調査をおこなう。	9月 20日		(第4班 国後島中ノ古丹、ホノナリ)		
5月 28日		・羅臼町のタラ漁船が択捉島西側でロシア国境警備隊にだ補される。	12月 26日		・北方四島交流センターの入館者数が10万人を達成。		
6月 18日		・「北方四島・海獣類と鳥類専門家交流訪問団」が来日する。	2003年		平成 15年 1月 14日	・参院・沖縄及び北方領土に関する特別委員会一行が北方領土を視察する。	
8月 9日		・第23回北方領土基参実施。 (第1班、国後島古丹消、ハツチャス) (第2班、国後、択捉、濃霧で上陸断念、船上で慰霊祭を行う) (第3班、択捉入里節、グヤ、国後植内) (第4班、色丹福茂尻、秋勇留オタモイ、志免西浦泊)			3月 25日	・北方領土返還・四島交流促進議員連盟が発足する。	
8月 23日		・森田一運輸大臣、北海道開発庁長官が北方領土を視察。			5月 11日	・根室ロシアフェスティバル 2003 が北方四島交流センターで開催される。	
8月 24日		・羽田孜幹民民主党幹事長がビザなし交流に首相経験者として初めて参加。			6月 20日	・内閣法制局の山崎参事官が北方領土を視察する。	
9月 3日		・ブーチン・ロシア大統領が来日。日ロ首脳会談が開かれる。領土問題解決による日ロ平和条約の締結について交渉継続するとした共同声明を発表。			7月 4日	・北方四島自由訪問で戦後初めて国後島の瀬石を訪問する。	
9月 14日		・統訓弘総務庁長官がビザなし交流に参加。			7月 29日～8月 1日	・第26回北方領土基参実施。 (第1班 択捉島別飛、ベケンリタ、オダイベケ)	
10月 1日		・「北方四島返還要求国民集会 in NEMURO」が納沙布岬の望郷の岬公園で行われる。			8月 4～6日	(第2班 国後島植内)	
11月 15日		・「衆議院の沖縄及び北方問題に関する特別委員会」に藤原根室市長ら3人が意見陳述。			8月 23日	・高橋はるみ北海道知事が北方領土を視察する。	
11月 27日		・全国の北方領土返還要求運動都道府県民会議、北方領土元居住者らを対象にした「北方領土返還要求運動関係者特別集会」が北方四島交流センターで開催される。			8月 26～28日	・第26回北方領土基参実施 (第3班 国後島礼文礁、乳香路)	
2001年		13年 2月 17日		・橋本沖縄・北方対策大臣が北方領土を視察する。	8月 30日～9月 2日	(第4班 色丹島アナマ、歯舞群島水島島秋味場)	
		3月 25日		・森首相とブーチン・ロシア大統領による日ロ首脳会談がロシア・イルクーツク市で行われる。	8月 31日	・細田博之沖縄及び北方対策担当大臣がビザなし交流に参加。国後島を訪問する。	
	4月 7日	・森首相が北方領土を視察。現職総理としての視察は20年ぶり。		9月 18日	・市立根室病院で北方四島人道支援択捉患者を受け入れる。		
	4月 14日	・千島歯舞諸島居住者連盟根室支部青年部の設立総会が開かれる。		11月 22日	・千島歯舞諸島居住者連盟根室管内青年部連絡協議会が設立される。		
	5月 17日	・ビザなし交流の新規事業「日本語習得研修」に参加するため北方四島在住ロシア人10人が来根。		12月 15日	・茂木敏充沖縄及び北方対策担当大臣が北方領土を視察する。		
	6月 2日	・北方四島への人道支援の一環として、日本政府が色丹島へ供給する自航式はしけ「友好丸」が完成し、進水式が行われる。		12月 20日	・野村一成在ロシア特命全權大使が北方領土を視察する。		
2004年				2004年	平成 16年 7月 14日	・衆院沖縄及び北方問題に関する特別委員会一行が北方領土を視察する。	
					7月 28～30日	・第27回北方領土基参実施。 (第1班 国後島古釜布、東湧)	
			8月 2～5日		(第2班 択捉島留別、ボンヤリ)		
			8月 25～28日		(第3班 色丹島斜古丹、国後島白糠泊)		
			9月 2日		(第4班 悪天候のため中止)		
			9月 17日		・小泉首相が洋上から北方領土を視察。現職総理としては3人目。		
			9月 23日		・参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会一行が北方領土を視察する。		
					・民間団体としては初めて連合が主体のビザなし訪問が行われる。		

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
2004年	平成16年11月7日	・小池百合子内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策担当）が北方領土を視察する。	2006年	平成18年8月24日 ～26日	（第3班）国後島泊
2005年	平成17年2月8日	・参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会に藤原市長が出席する。		28日～31日 8月16日	（第4班）択捉島入里節、十五夜前 ・北方領土歯舞群島の貝殻島付近で、根室湾中部漁業協同組合所属のかにかご漁船「第31吉進丸」がロシア国境警備隊により銃撃・逮捕され、乗組員4名のうち1名が死亡。
	2月下旬	・択捉島ギドロストロイ水産加工場火災。		9月11日	・道や道内市町村との連携を強化するための「北海道連携推進室」が外務省ロシア課内に設置される。
	3月20日	・公明党「北方領土返還要求実現大会」を根室市において開催する。		10月12日	・北方四島人道支援事業の新規事業として、四島交流に来訪する四島住民（57名）に対し、市立根室病院で健康診断を実施。
	3月26日	・自民党「北方領土研修会」を根室市、釧路市において開催する。		11月18日	・ベトナム・ハノイで行われたAPEC首脳会談に際し、日ロ首脳会談が行われ、今後は日ロ双方が受入可能な解決策を見出す交渉を精力的に行うことで合意した。
	5月22日	・七条内閣府副大臣が北方領土を視察する。		12月10日	・これからも元気に返還運動を続けていくことを目的に、ニ・ホ・ロ元氣フェスタ「ヨールカ」が、北方四島交流センターで開催。
	5月30日	・高橋はるみ北海道知事がビザなし交流に参加。国後島、択捉島を訪問する。		12月15日 ～16日	・高市早苗内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）が納沙布岬から北方領土を視察、ニ・ホ・ロでは関係団体と懇談。
	7月7日	・小池百合子内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策担当）がビザなし交流に参加。国後島、択捉島を訪問する。	2007年	平成19年1月11日 ～12日	・参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会の一行が現地実情調査のため来根。
	7月9日	・北方七カ村合同模擬協議会が北方四島交流センターで開催される。		2月6日	・東京都新宿において「中央アピール行動」として、初めての街頭行進が実施される。
	8月2～4日	・第28回北方領土基参実施。 （第1班 悪天候のため中止） （第2班 択捉島内保、ウエンパフコツ） （第3班 志発島カフェノツ） （第4班 国後島ニキシロ、近布内、瀬石）		2月7日	・北方領土の日根室管内住民大会において「返還の叫び」が行なわれる。
	8月27～29日	・8.28北方領土返還要求運動IN根室が北方四島交流センター特設会場で開催される。		6月7日～8日	・東良内閣府審議官が現地実情調査のため来根。
	8月31日～9月3日	・第一回北方領土まで歩こう会（根室ゴルフ～納沙布）が開催される。		6月15日～16日	・谷本龍哉内閣府大臣政務官が現地実情調査のため来根。
	8月28日	・「北方領土返還要求運動60年国民集会 in NEMURO」がノサップ岬の望郷の岬公園で行われる。		7月17日～20日	・第30回北方領土基参実施 （第1班）択捉島紗那、別飛 （第2班）水晶島茂尻消、ボッキゼンベ、色丹島チボイ
	9月11日	・祈りの火採火・分火式（納沙布岬・ときわ台公園）が開催される。		7月24日～27日	（第3班）国後島白糠泊 （第4班）多楽島フルベツ
	9月25日	・北方領土朗読会「四島を追われて」が根室市総合文化会館で開催される。		8月22日～24日 9月12日～14日 8月21日～22日	・衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会の一行が現地実情調査のため来根。
	9月26日	・北方海域における安全操業で初の漁船逮捕。		9月5日	・岸田文雄内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）が納沙布岬から北方領土を視察、ニ・ホ・ロでは関係団体と懇談。
	10月19日	・前原誠司党代表を団長とする民主党の北方領土問題視察団が来根。		10月12日	・緊急人道支援として、国後島より重度の火傷患者（2歳）を市立根室病院が受け入れる。
	11月3日	・プーチンロシア大統領が来日。日ロ首脳会談が開かれる。北方領土問題の具体的進展はなく共同声明作成もみおくられた。		10月21日～26日	・長谷川市長が北方領土相互理解促進対話交流使節団の副団長として、モスクワを訪問する。
	11月7日	・根室市内の関係団体による北方領土返還要求運動再構築懇談会が開催される。		11月5日 12月1日	・中川義雄内閣府副大臣が北方領土を視察。 ・東京都中央区銀座において、2回目の「中央アピール行動」が実施される。
	11月21日	・外務省欧州局八木審議官が来根し、日ロ首脳会談の内容を説明。	2008年	平成20年5月7日	・ロシア新大統領にメドベージェフ氏就任。 プーチン氏を首相に指名。
	12月2日	・根室市役所内に「北方領土問題再構築プロジェクト」発足。		6月27日	・北方四島のロシア人医師（ビザなし交流専門家枠での医療研修）を根室市が受け入れる。
	12月14日	・根室市役所内に「北方領土問題再構築プロジェクト」発足。		7月7日	・北海道洞爺湖においてサミットが開催。翌日、日ロ首脳会談が行われ領土交渉を前進させることで一致。
	12月19日	・高等学校対抗北方領土クイズ大会が北方四島交流センターで開催。		7月22日～24日 7月28日～31日 8月20日～22日	・第31回北方領土基参実施 （第1班）色丹島斜丹、稲茂尻 （第2班）択捉島薬取、シヤリス （第3班）水晶島秋味場、秋留島オタモイ、勇留島トコマ （第4班）国後島フニ、ニキシロ
2006年	平成18年1月14日 ～15日	・再構築提言書作成に係る意見を日本全国より頂くため、根室市のホームページで意見募集を掲載する。		8月18日	・林幹雄沖縄及び北方対策担当大臣が北方領土を視察。
	1月20日	・再構築提言書作成に係る意見を日本全国より頂くため、根室市のホームページで意見募集を掲載する。		11月22日	・佐藤勉沖縄及び北方対策担当大臣が北方領土を視察。
	1月23日～25日	・藤原弘根室市長が北方領土相互理解促進対話交流使節団の副団長としてサハリン州を訪問する。		12月1日	・東京都中央区銀座において、3回目の「中央アピール行動」が実施される。
	2月1日～12日	・根室高校書道部の北方領土の日記念校外展「北方領土フォト川柳作品展」が北方四島交流センターで開催される。		12月1日～2日	・東京都新宿駅において、「北方領土展2008IN東京」が実施される。
	2月7日	・「北方領土の日根室管内住民大会」において返還行進が行われる。	2009年	平成21年2月18日	・麻生首相がサハリンを訪れ、メドベージェフ大統領との日露首脳会談で、「新たな、独創的で型にはまらないアプローチ」の下で作業を行うことで一致。
	2月21日	・道内小中学校での北方領土教育の環境整備を目指す「北海道北方領土教育者会議」（代表／吉岡教之根室管内北方領土学習研究会会長）		2月16日～17日	・参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会の一行が現地実情調査のため来根。
	2月22日	・北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会として「再構築提言書」を取りまとめる。			
	3月6日～8日	・北隣協（会長／根室市長）は「北方領土問題の解決に向けた取り組みの再構築提言」をまとめ、内閣府、外務省、北海道、開発局などに対し、最初の要請活動を実施。			
	3月7日	・北対協主催の国際シンポジウム2006「ロシアとの国境問題を考えるー北欧諸国と日本の場合ー」が長崎市で開催。			
	5月31日	・第1回北方領土隣接地域振興協議会（構成／国、道、地元市町）をニ・ホ・ロで開催。			
	6月29日	・貝殻島周辺コンプ漁が、ロシア側の手続の遅れから過去最も遅い出漁となる。			
	7月6日～7日	・衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会の一行が現地実情調査のため来根。			
	7月19日～21日	・第29回北方領土基参実施 （第1班）国後島ハツチャス、古丹消 （第2班）志発島西浦泊、色丹島相見先、キリトウシ			
	7月24日～27日				

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
2009 年	5 月 1 日	・橋本聖子外務副大臣が現地実情調査のため来根。			
	5 月 12 日	・来日中のプーチン首相と麻生首相との会談で、これまでの日露間の合意などに基づき「双方が受け入れ可能な方策を模索する作業を加速する」ことが確認された。			
	5 月 15 日～18 日	・第 1 回ビザなし訪問がロシア側の内部手続きの遅れで中止となる。			
	7 月 3 日	・参議院本会議で、北特法の改正法案が全会一致で可決成立。昭和 57 年の制定以来 27 年ぶりの抜本的改革となり、北方領土がわが国の領土であることが明記される。			
	7 月 9 日	・イタリアで開かれたラクイラ G 8 サミットに際し日露首脳会談が行われ、北方領土問題で解決策を見出すよう作業の加速・強化させることや首脳レベルでも話し合うことで一致。			
	7 月 23 日～24 日	・第 32 回北方領土墓参実施 (第 1 班) 国後島ラシコマンベツ、植内			
	7 月 27 日～30 日	(第 2 班) 択捉島オンネベツ、 トマカラウス、グヤ			
	8 月 18 日～21 日	(第 3 班) 色丹島アナマ、 志発島カフェノツ			
	8 月 24 日～26 日	(第 4 班) 多楽島ヒラリウス、フルベツ			
	8 月 20 日	・中曽根弘文外務大臣が北方領土を視察。			
	10 月 16 日～17 日	・前原誠司沖縄及び北方対策担当大臣が来根し返還運動関係者や元島民との懇談で領土問題の早期解決に向けて意欲を見せ、納沙布岬と洋上から北方領土を視察。			
	10 月 18 日～23 日	・長谷川市長が北方領土相互理解促進対話交流使節団の副団長として、ロシア極東地域を訪問する。			
	11 月 15 日	・シンガポールで行われた A P E C での鳩山首相とメドヴェージェフ大統領との日露首脳会談で首脳間で緊密に協議を行っていく必要があること、また、両外務大臣間でできるだけ早期に協議させていくことで一致。			
	12 月 1 日	・東京都中央区銀座において、4 回目の「中央アピール行動」が実施される。			
	12 月 2 日～3 日	・東京都新宿駅において、「北方領土展 2009 IN 東京」が実施される。			